



園だより

令和7年12月1日

社会福祉法人新田保育園

園長 大西 陽子

表現するということ

わくわく、どきどき、ふんふん、しくしく。気持ちを表すことばはたくさんあります。ことばだけではなく、その表現方法は動作、表情、音、色や描写、香りなど様々です。私は高校生の頃演劇部に所属していました。脚本、演出、音楽、舞台美術、照明、衣装、小道具、大道具、そして役者と各エキスパートが集まり、伝えたいことをどのように表現するかといつも意見を出し合ってはやってみることを繰り返していました。いくつもの手法を重ね合わせて表現する演劇は“総合芸術”と言われています。

さて、新田保育園ではもうすぐ冬まつりがあります。冬まつりは、日常の表現を凝縮した日と言っても過言ではありません。ぞう組は絵本を題材とした劇をします。動物たちみんながポケットの中に入る場面が「うれしそうだから」「しあわせなきもちになる」と気に入り、実際役になりきって遊んでみて、楽しかったからと選びました。りす組は合宿を題材にした創作劇あそび。どきどきしたけれど楽しかったりす組合宿の再現がしたいと選びました。どちらのクラスも演じたい場面や台詞を自分たちで考えましたが、各々の表現を好きに楽しんでいたのと、劇として表現するのとは全く違うと気づきました。観客を意識して演じようすると、台詞も動作もどこかぎこちなくなります。『何か違うな』『うまくいかない』『どうしたらいいかな』その根本には自分たちが感じた“心の動き”を表現したいという思いがあるのです。

嬉しい時、悲しい時、楽しい時、寂しい時、怒った時など、心が動いたその瞬間、近くにそれをわかってくれる人がいたらどうでしょう。『同じ気持ちだ』『わかつてくれた』と感じると、嬉しくてほっとします。もっと誰かとこの気持ちを分かち合いたい、だから伝えたいという思いが表現方法の獲得に繋がります。日常のやりとりも表現活動の連続です。友だちと話したり喧嘩する時も、つかう言葉や伝え方は違います。緊張して走り出す子もいれば、部屋の隅にうずくまる子もいます。「おいしい！」と笑う子、目を丸くする子、ほっぺをおさえる子と表し方は千差万別。そのひとり一人の表現を尊重することで安心でき、さらなる自己表現へ繋がっていきます。

自分を表現することは正に“総合芸術”であり、生きていく上でとても大切な力です。その表現の幅を広げ、社会に羽ばたいていく基礎を育みたいと、私たちは考えています。日々の生活の中でたくさん遊んで、本物の文化に触れ、心が動く体験をたくさんの人たちと一緒に重ねていきたいと思います。

(文責:須田 千鶴子)